

令和 7 年度事業報告書

1) 公益財団法人名古屋国際センターの概要

1 設立年月日

昭和 59 年 8 月 1 日

2 定款に定める目的

名古屋を中心とした地域の歴史、文化、その他の特性を生かして、市民の国際理解及び多文化共生を推進する事業を行うことにより、市民レベルの相互理解に基づく多文化共生社会の形成を促進し、誰もが共に豊かに安心して暮らせる社会の実現に努め、もって普遍的な国際平和に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

(1) 公益目的事業

- ア 市民に対して外国に関する情報等を提供するとともに、外国人等からの生活全般に関する相談に応じる事業
- イ 語学や多文化共生等に関する講座、研修会等を開催する事業
- ウ 地域の国際化の推進に取り組む団体等との協働により講座等を開催するとともに、その活動を支援する事業
- エ 地域に暮らす外国人と市民との相互理解を図るイベント等を行う事業
- オ 留学生に対する宿舍の提供、相談等の支援を行うとともに、留学生と市民との交流を図る事業
- カ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(2) 公益目的事業の推進に資するための事業

- ア 名古屋国際センター等の国際交流施設の管理及び運営
- イ その他公益目的事業を推進するために必要な事業

4 主たる事務所

愛知県名古屋市中村区那古野一丁目 47 番 1 号

2) 令和 7 年度事業報告

(公財)名古屋国際センター（以下「センター」という。）は、名古屋を中心とした市民レベルの国際交流及び国際協力を行うことにより、相互理解に基づく多文化共生社会の形成を促進し、誰もが共に豊かに安心して暮らせる社会の実現を目指し、各種事業を実施している。

事業の実施にあたっては、令和4年度から8年度の計画である「第3次名古屋市多文化共生推進プラン」を踏まえて行っている。

なお、事業実績に併記している「[R6:数字]」は令和6年度末時点の実績である。

I 指定管理事業

国際化推進事業

1 情報収集提供事業

(1) 情報サービスコーナーの運営

情報カウンターでは、外国人には生活情報等（医療、日本語学習、出入国関係など）を日本語、英語はじめ 11 言語及び「やさしい日本語」で提供し、日本人には主に、ボランティア活動、国際交流・協力に関する情報提供を行った。

名古屋市の「一元的相談窓口」として、多言語による問い合わせに対しては、通訳スタッフのほか遠隔通訳サービスや機械翻訳等も活用するとともに、相談者と公的機関をセンターの通訳を介してつなぐトリオホン（3 者通話システム）やタブレット端末によるテレビ電話通訳、公式 LINE 通話及び各種オンラインなど多様な方法で対応した。

また、担当職員や通訳スタッフを対象に研修を行い、相談対応の質の向上に努めた。

情報サービスコーナー入館者数 6,886 名[R6:7,660 名]、問い合わせ件数 9,106 件[R6:10,264 件]、トリオホン実施件数 212 件[R6:216 件]。

(2) ライブラリーの運営

ア 資料室の運営

海外紹介図書や絵本、国際理解・国際協力及び多文化共生に関する図書をはじめ、海外の新聞・雑誌や日本語教材、日本紹介図書等を配架し、閲覧及び貸し出しに供した。また、海外紹介、日本紹介、国際理解、日本語学習の視聴覚資料を提供した。

ライブラリー入館者数 17,617 名[R6:18,524 名]、図書貸出冊数 4,239 冊[R6:4,882 冊]、CD・DVD 貸出点数 111 点[R6:142 点]。

イ 親子絵本コーナーの運営

絵本を通じて海外の文化に触れる機会を提供するとともに、外国人の子どもの母語保持・習得に資するため、海外の絵本の読み聞かせができるコーナーを設置し、日本及び海外の絵本を配架した。

ウ 交流スペースの運営

国際交流・協力、多文化共生等の分野で活動する団体や若者グループが、打ち合わせや情報交換、イベントなどに利用できる場を提供した。

利用者数延べ 1,453 名[R6:1,316 名]、利用件数 182 件[R6:172 件]、登録団体数 48 団体[R6:43 団体]。

エ ライブラリー特別企画

ライブラリーの図書や映像資料を活用したイベントを実施した。

(ア) 外国語で楽しむ絵本の会

外国語の絵本の読み聞かせを通して、外国文化に触れる機会を提供したほか、外国人ボランティアが自国の歌や遊びなどを紹介した。市内の図書館等にも出向いて同事業を実施し、広くセンターの PR に努めた。

開催日及び会場	名古屋国際センター：原則毎月第2・第4日曜日 中村図書館：6月7日、11月1日、3月7日（予定）
対応言語	英語、中国語、ハングル、スペイン語、フィリピン語、ネパール語等（日本人ボランティアによる日本語通訳付き）
参加者数	延べ261名（うち外国人41名）[R6:延べ217名（うち外国人31名）]

(イ) 絵本のひろば

「外国語で楽しむ絵本の会」の夏休み拡大版として、外国人ボランティアによる「スポーツ・遊び」をテーマとした絵本の読み聞かせを実施した。また、特別企画として、タイ出身の講師による母国紹介及びアジア競技大会の公式種目「セパタクロ」のボールづくりを行った。

開催日	8月24日
参加者数	延べ51名 [R6:延べ35名]

(ウ) ライブラリーで世界を学ぼう！

一般市民を対象に、ライブラリーを活用して外国文化に触れるイベントを実施した。今年度は、北マケドニア出身の講師による現地の人々の暮らしや食文化の紹介のほか、キリル文字について楽しく学ぶ体験を行った。

開催日	11月16日
参加者数	23名（定員20名）[R6:8名（定員20名）]

(エ) ライブラリー子ども企画

子どもを対象にライブラリーの図書や子ども版「ニック・ニュース」を活用し、異文化や地球の課題への関心を深めてもらうことを目的として、①「世界のいただきますをつくってみよう！」、②クイズラリーを実施した。

開催日	① 2月28日 ② 夏休みクイズラリー：7月19日～8月31日 冬休みクイズラリー：12月24日～1月31日
参加者数	① 20名 [R6:34名] ② 夏休み：66名 冬休み：56名 延べ122名 [R6:延べ115名]

(オ) NIC ビブリオトーク

「日本へ留学するきっかけになった本」、「あなたの背中を押してくれた本」をテーマに、おすすめの本を紹介し合い、参加者同士で本を通じた交流を行った。

開 催 日	3月8日
定 員	6名（定員15名）[R6:10名（定員15名）]

オ 本のリサイクルコーナーの運営

古くなったペーパーバックや海外雑誌等を市民に提供する機会として、ライブラリー内に「本のリサイクルコーナー」を常設した。

同コーナーで集めた募金を“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会に寄付し、国際協力等に役立てたほか、ライブラリー図書の購入に充て、利用者サービスの向上に努めた。

(3) 社会見学の受入れ

中学生から大学生まで幅広く施設見学を受け入れ、センターの事業を紹介するとともに、グローバル人材、多文化共生や国際理解・協力への理解を深めるためのきっかけづくりを行った（372名、30件 [R6:285名、28件]）。

(4) 留学ガイダンス

情報サービスコーナーで留学や奨学金に関する問い合わせに対応したほか、各国政府機関が発行する留学パンフレットの配架などにより、最新の留学関連情報を提供した。

(5) 行政文書翻訳

名古屋市からの依頼により、各種案内文や申請用紙等の翻訳を行った。

件 数	186件 [R6:218件]
対 応 言 語	ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計9言語）

2 相談事業

(1) 海外児童生徒教育相談

家族の海外勤務による出国・帰国時の編入学等に関する相談や日本に在住する外国人児童・生徒の教育に係る相談に、関係機関・団体等と連携して対応した。

開 催 日	毎週水・金・日曜日 午前10時～12時、午後1時～5時
件 数	425件（348名）[R6:430件（343名）]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、メール、オンライン

(2) 外国人行政相談

ア 外国人行政相談

市政等の行政に関する問い合わせについて、相談員が情報提供や相談に対応した。
また、区役所窓口で日本語に不案内な外国人に対して、トリオホン（3者通話システム）による通訳サービスを行った。

件 数	898件（877名）[R6:970件（949名）] ※この他にトリオホン212件[R6:216件]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、メール、手紙

イ 外国人のための行政書士による相談

在留資格、国籍、起業などの各種手続き等について、愛知県行政書士会の行政書士が無料で相談に応じた。

開 催 日	毎週水・日曜日 午後1時～5時
件 数	211件（222名）[R6:259件（258名）]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

ウ 名古屋出入国在留管理局による相談

出入国手続きや在留資格の更新・変更等について、名古屋出入国在留管理局の職員が相談に応じた。

開 催 日	毎月第4土曜日
件 数	24件（24名）[R6:28件（29名）]
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語（計8言語）
対 応 方 法	来館

(3) 外国人無料法律相談

結婚・離婚、在留資格、交通事故や労働問題等、日本の生活で生じる法律問題について、愛知県弁護士会の弁護士が無料で相談に応じた。

開 催 日	毎週土曜日 午前10時～12時30分
件 数	147件（135名）[R6:147件（133名）]
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（計4言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

(4) 外国人のための税理士による無料税務相談

名古屋税理士会との共催で、確定申告書の書き方を学ぶ動画を多言語で制作し、ウェブサイトに掲載するとともに、税に関する個別相談に通訳を介して対応する。

開 催 日	1月31日
定 員	7件（7名）[R6:セミナー20名、個別相談15名]

対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語（計5言語）
---------	---------------------------------

（５）外国人こころの相談

外国人が日本の生活で抱く不安や悩み等を解消するため、母国で資格や経験のある相談員が通訳を介さずに相談に応じた。

件 数	701件（256名） [R6:634件（240名）]
対 応 言 語	英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（計4言語）
対 応 方 法	来館、電話、オンライン

（６）ピアサポートサロン

外国人が孤独感を抱え、精神的に不安定になることを未然に防ぐため、仲間や居場所づくりのほか、悩みを共有する場となるサロンを、「外国人の子どもと保護者のための進路ガイダンス」にて保護者を対象に実施した。

開 催 日	7 月 26 日
参 加 者 数	23 名 [R6:17 名]

（７）外国人健康相談

外国人住民が健康で安心して暮らせるよう、「NIC 日本語教室」や「外国人ワンストップ総合相談会」で、健康に関する啓発や健康・福祉に関する相談の場を設けた。また、外国語で受診可能な医療機関等、健康に関する情報提供を情報サービスコーナーで随時行った。

内 容	①健康サロンin NIC日本語教室 ②外国人ワンストップ総合相談会 ③情報カウンターにおける情報提供
開 催 日	①7月6日、10月26日、3月1日 ②9月21日、2月22日 ③通年
参加者数 あるいは件数	①延べ186名 ②6件 ③185件

（８）難民相談

（公財）アジア福祉教育財団難民事業本部との共催で、インドシナ難民定住者、条約難民及び難民認定申請者等のための生活相談、保護措置等について相談に応じた。

開 催 日	毎週木曜日（事前予約制）
件 数	145件（56名） [R6:238件（115名）]
対 応 言 語	英語等

（９）外国人の子どもと保護者のための進路ガイダンス

外国人の子どもと保護者を対象に、中学卒業後の進路に関する情報提供や相談に対応するガイダンスを教育関係機関等の協力を得て実施した。日本の教育制度に関する説明や、大学生や社会人による体験発表、高等学校・専門学校・教育委員会等による個別相談会を実施した。

開 催 日	7月26日
参 加 者 数	78名（定員100名） [R6:108名（定員80名）]
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語（計8言語）

(10) 外国人生活相談出張サービス

センター職員と相談員が、外国人住民が集まりやすい場所に出向き、生活全般や高校進学・就学等について相談に応じた。

開 催 日	7月29日
件 数	1件（1名） [R6:延べ18件（18名）]
会 場	ウクライナ避難民のための支援金贈呈式及び交流会

(11) 外国人ワンストップ総合相談会

関係専門機関・団体等の協力を得て、在留資格、労働、社会保険、住宅、子育て、子どもの進路、日本語学習等の相談にワンストップで対応する相談会を実施した。

開 催 日	①9月21日 ②2月22日
参 加 者 数	①46件（36名） ②52件（41名）
対 応 言 語	日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語（計11言語）

(12) 相談事業における関係機関との連携

教育、生活支援等を行っている専門機関・団体と具体的な相談事例の情報・意見交換を行い、連携を強化するとともに外国人支援の充実を図った。

団体・機関	あいち産業振興機構、愛知労働局、外国人ヘルプライン東海、社会福祉法人名古屋市/中村区/中区社会福祉協議会、住まいサポートなごや、中村年金事務所、名古屋外国人雇用サービスセンター、名古屋市健康福祉局、名古屋市子ども青少年局、名古屋市財政局、名古屋出入国在留管理局、名古屋市立大学大学院看護学研究科、法テラス愛知、南区役所、中村区エリア支援保育所、なごや子ども応援委員会、子どもの権利相談室「なごもっか」、精神保健福祉センター「ここらぼ」、仕事・暮らし自立サポートセンター、子ども・若者総合相談センター、名古屋市重層的支援体制整備事業、名古屋難民支援室、名古屋市立なごやか中学校、名古屋市住宅都市局 他
-------	---

(13) 大規模災害発生時における外国人市民の相談支援事業

大規模災害の発生時に、情報サービスコーナーに「災害多言語支援センター」を設置し、外国人への情報提供や生活復興などの相談対応を通常業務に優先して行う。

※令和7年度は、実施せず。

3 広報出版事業

(1) 地域の国際化推進のための情報発信「NIC NEWS Web」

異文化や地球の課題への理解促進、多文化共生の周知・啓発のため、センター主催イベント、ボランティア活動等の情報をウェブサイトに掲載し、発信した。

(2) ウェブサイト等による情報発信

ア 多言語によるウェブサイトでの情報発信

センターの事業紹介や生活・行政・防災情報などを、英語はじめ多言語でウェブサイトに掲載し、広く発信した。(アクセス 738,480 件[R6:850,258 件])。

イ SNSでの情報発信

ウェブサイトに掲載した情報や市政情報などを、フェイスブック、X (旧ツイッター)、インスタグラムを活用し、幅広く発信した。

ウ メールマガジンでの情報配信

ウェブサイトに掲載した情報等をメールマガジンで毎月配信し、センター事業のPRに努めた。

配信件数 53,445 件[R6:52,445 件]。日本語、英語、中国語、ポルトガル語の4言語で配信。

(3) 子ども版「ニック・ニュース」の発行

子どものころから地球市民意識を育むため、日々の暮らしと世界とのつながりを考える事例や国際協力・多文化共生のヒントなどをテーマに取り上げ、夏と冬の年2回、各 70,000 部発行した。夏号については、「アジア・アジアパラ競技大会」の機運醸成のため、アジアのスポーツをテーマとした。

市内小学校、図書館、児童館、県内国際交流協会等へ配布。

＜テーマ＞ 夏号「スポーツでつながろう！アジア大冒険」

冬号「みんなの学校 世界の学校 ～学校を通して世界を見てみよう～」

(4) 「名古屋生活ガイド」の発行

生活に関する基本情報や各種手続きの窓口・相談先等をまとめた「名古屋生活ガイド」(デジタル版)を制作し、「外国人転入ウェルカムキット」に同封して配布するとともに、センターのウェブサイトに掲載した。

4 研修事業

(1) 日本語学習支援活動者向け研修

ア 日本語ボランティアシンポジウム

東海日本語ネットワーク(TNN)と共催で、日本語学習支援の充実のため、地域で活動する日本語教室の情報交換と連携を図るシンポジウムを実施した。

＜テーマ＞日本語教室のいろいろなカタチ

＜基調講演＞『集まる場所』としての日本語教室～地域コミュニティの視点から～

講師：河村 則行 氏

(名古屋大学大学院環境学研究科准教授(社会環境学専攻))

＜パネルディスカッション＞

「地域コミュニティと日本語教室～新しい活動のあり方をめざして～」

コーディネーター：河村 則行 氏

パネリスト：岡崎 恵理 氏（名古屋市守山図書館司書）

峠 和宏 氏（ヒューマンアカデミー日本語学校名古屋校教務主任）

長島 吉郎 氏（明治安田生命名古屋本部ボランティアリーダー）

矢島 清香 氏（たのしくつながる日本語教室（南区）ボランティア）

開催日	12月6日
参加者数	165名（定員200名） [R6:160名（定員200名）]

イ 日本語ボランティア研修

在住外国人や地域の日本語教室に関心を寄せてもらえるよう、無関心層を主な対象として実施。外国にルーツを持つ子どもとして日本で育った経験を持つ著名人や、日本語教室の実践者をゲストに迎え、地域の日本語教室の役割ややりがいについて知る機会とした。配布資料として、名古屋市の体制整備事業の説明やボランティア日本語教室の紹介するリーフレットを作成し、より理解を深めた。

基調講演講師：當間 ローズ 氏（歌手・モデル・俳優・華道家）

ナビゲーター：牧野 佳奈子 氏（一般社団法人DiVE.tv 代表理事）

パネリスト：田中 智子 氏（らくらく日本語教室 代表）

宮田 茉桜 氏（八社多文化教室 代表）

開催日	11月30日
テーマ	「にほんごでつながろう」 地域日本語普及啓発～咲かせよう あなたらしさ 私らしさ～
参加者数	135名（定員150名）[R6:202名（定員150名）]

（２）地域の国際化セミナー

外国人をめぐる様々な情報についてのファクトチェックと、今後の日本社会で外国人材の受け入れの重要性について考えるセミナーを実施した。

＜テーマ＞

「外国人の『うわさ』のウソ？ホント？～事実に基づく情報と今後の共生社会とは」

講師：橋本 直子 氏（国際基督教大学准教授）

パネリスト：ポッダル プロビル クマール氏（「みどり多文化共生ボラネット」代表）

グルン プスパ氏（株式会社マザーズ・グローバル推進部）

保坂 龍彦氏（株式会社アイシン BR YYSsystem 事業推進部

YYSsystem 事業推進グループグループ長）

開催日	2月28日
定員	163名（定員100名）[R6:174名（定員150名）]

5 国際交流・国際協力事業

(1) NIC 地球市民教室の運営

登録している外国人講師は、111 名（延べ 113 名、34 か国、2 地域）。

ア NIC地球市民教室

在住外国人を講師として登録し、学校や非営利団体等からの依頼を受けて、母国の文化や日本での生活の様子などを伝える講座を実施した。また、名古屋市教育委員会主催「名古屋土曜学習プログラム」にも参加した。

講 師 派 遣	135件（延べ259名） [R6:111件（延べ206名・1団体）]
「名古屋土曜学習プログラム」 学校・開催日・参加者数	藤が丘小学校 6月8日、55名

イ 発見！体験！地球市民キャンパス

主に若者（学生）を対象に、参加型の学習を取り入れた「NIC 地球市民教室」のプログラムを体験できる機会を提供し、自分や社会が多様性についてどのように向き合っていくべきかを考えた。

開 催 日	①5月9日、6月20日、7月4日 ②10月7日、11月11日、12月2日
対 象	①名古屋市立大学「地域特色科目」受講者 ②愛知大学「共通教育科目」受講者
受 講 者 数	①40名 ②40名 計80名

ウ 講師の新規登録及び研修

新規登録講師を公募し登録を行ったほか、すべての登録講師を対象に研修を実施した。

(ア) 講師登録・オリエンテーション

新規登録講師を公募し、登録を行った。オリエンテーションでは、「NIC 地球市民教室」の概要と講演のコツを学んだ。

開 催 日	①9月17日 ②3月4日
参 加 者 数	①8名 ②14名 [R6:11名]

※講師登録者数としては、参加者数に加え、①は1名、②は3名、別途登録があった。

(イ) 講師のスキルアップ研修

全ての登録講師を対象に、講義・講演に必要な知識やコツを学ぶ研修を行った。

開 催 日	①9月17日 ②3月4日
参 加 者 数	①14名 ②19名 [R6:23名]

エ アジア・アジアパラ競技大会2026に向けた「フレンドシップ事業」への講師派遣

名古屋市総務局アジア・アジアパラ競技大会推進課が実施する同大会の機運醸成のための「フレンドシップ事業」において、アジア各国への市民の理解と親しみを深めるため、国際交流イベントや学校の授業に「NIC 地球市民教室」登録講師を派遣した。

件 数	地域：13件 学校：5件
参 加 者 数	地域：約920名 学校：約500名

(2) 名古屋市の姉妹友好都市との周年に併せた事業

<トリノ市>

NHK テレビやラジオで活躍するイタリア出身の講師による、トリノ市の紹介や日本とイタリアの文化の比較に関する講演とトリノ名物のチョコレートの試食を行い、トリノ市やイタリアへの理解を深めた。

講師：マッテオ インゼオ氏

<シドニー市>

NIC 地球市民教室講師のシドニー出身講師による、シドニーのクリスマスシーズンの様子やアボリジニ紹介を通して、文化や人々の暮らし方について理解を深めた。

開催日	10月4日(トリノ市)、11月23日(シドニー市)
参加者数	182名(定員50名)、68名(定員50名) [R6:83名(定員50名)]

(3) グローバル人材育成事業

ア グローバルユースフォーラム

若者が世界に視野を広げ、多様性を尊重する「グローバル人材」への関心を高めることを目的に、アフリカや中東で人道支援や現地取材を行うフリーランス国際協力師・原貫太氏を迎えた講演会を実施した。「世界の課題と私たちの日常をつなぐ視点 ～本当の社会貢献とは～」と題し、第一部では情報発信の意味やSDGsへの考え方を、第二部では世界で挑戦する人々の活動をジャーナリストの視点で紹介した。

講師：原 貫太 氏 (フリーランス国際協力師)

開催日	11月8日
参加者数	126名(定員60名) [R6:114名(60名)]

イ グローバルユースカフェ

センターの事業に参加した若者がメンバーとなり、イベントの企画・運営を主体的に行い、若者同士が自由に語り合う場を提供した。令和7年度は参加者の居場所づくりを軸に、異文化理解を目的とした「国際交流会」を、2か月に1回開催した。

開催日	企画ミーティング：月1～2回 イベント：6月22日、8月17日、10月12日、12月20日、 1月25日、2月22日
参加者数	延べ187名 [R6:延べ324名]

ウ グローバルユースデー

グローバルに活躍する若者主体の団体交流を通して、日々の活動における課題や悩み等を共有し、令和7年度は専門家からのアドバイスの場を設け、解決のヒントを得ることで、参加者自身の活動のステップアップを促す機会とする。

講師：秋田 有加里 氏 (愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター)

開催日	3月14日
定員	(定員団体10団体、見学者4名 計37名(定員20団体程度)) [R6:13団体44名]

6 ボランティア制度の運営等

(1) ボランティア制度の管理運営

延べ915名[R6:延べ1,126名]が登録し、日本語学習支援、情報の収集提供、通訳・翻訳、文化紹介及び行事運営の協力等の活動を行った。

ア 多文化共生ボランティア	
(ア) NIC日本語教室ボランティア (46名)	
(イ) 情報サービスコーナーボランティア (23名)	
a 情報カウンターボランティア (0名)	
b NIC OUT & ABOUT “発見！名古屋” ボランティア (5名)	
【主な活動】日本や名古屋地域の文化について、「やさしい日本語」と英語で紹介・解説し、ウェブサイトに掲載した。	
c NIC WALKING GUIDESボランティア (18名)	
【主な活動】日本人と外国人の交流を目的としたウォーキングツアーを名古屋市内において春と秋に実施した。参加者に対してウォーキングルートにおける歴史や文化に関する英語のガイドを行い、資料を作成して参加者に配布した。	
(ウ) ライブラリーボランティア (34名)	
a ライブラリーボランティア (5名)	
b 絵本の会ボランティア (29名)	
(エ) ひらがなしんぶんボランティア (2名)	
【主な活動】外国人に身近な情報を分かりやすいふりがなつきの日本語で紹介する「なごやひらがなしんぶん」第140号、第141号、第142号(2月発送予定)を発行した。	
(オ) NIC子ども日本語教室ボランティア (77名)	
(カ) NIC高校生日本語教室ボランティア (37名)	
(キ) 語学ボランティア (303名)	
【主な活動】外国人住民が言葉のサポートを必要とする生活場面で、通訳、手紙や資料の翻訳を行った。延べ59名（通訳50名、翻訳9名）が活動した。	
(ク) 災害語学ボランティア (256名)	
(ケ) 留学生サポートボランティア (31名)	
(コ) やさしい日本語ボランティア (11名)	
(サ) ピアサポートボランティア (2名)	
イ 異文化理解ボランティア	
(ア) ホームステイボランティア (32名)	
【主な活動】ロサンゼルス交歓高校生引率者1名（米国）のホームステイを受け入れた。また、名古屋と近隣地域でホームステイの受け入れを行う12団体とともにネットワーク組織「名古屋ホームステイボランティアセンター」を運営し、ホームステイの紹介を通して市民レベルの国際交流及び異文化間の相互理解を推進した。	
(イ) 事業サポートボランティア (30名)	
(ウ) グローバルユースボランティア (9名)	
ウ 国際協力ボランティア	
(ア) 世界寺子屋運動ボランティア (22名)	

(2) 災害時外国人支援研修

ア 災害時外国人支援ボランティア研修

減災対策や持続可能な防災組織に関する研究を行う講師より、災害の基礎知識から外国人支援のポイント、さらに過去の災害事例から災害時の外国人支援に必要な視点を深めた。また、グループワークを通して、避難所にいる外国人の困りごとを共有し、災害語学ボランティア、区役所職員など参加者それぞれの立場から、誰がどのような支援を行えるのかを具体的に考える機会とした。

＜講師＞小山 真紀 氏（岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授）

開 催 日	2月20日
参 加 者 数	55名 [R6:46名]

イ 災害語学ボランティア研修

災害時における外国人住民を取り巻く状況や、センター及び災害語学ボランティアの基本的な支援活動を学びスキルアップを図る研修会を実施した。第1回目は「やさしい日本語」の言い換えについてワークを通して学び、2回目および3回目はロールプレイを通して避難所での外国人被災者への聞き取り訓練を行った。

開 催 日	① 6月7日 ②10月31日 ③3月6日
参 加 者 数	① 25名 ② 20名 ③ 32名

ウ 名古屋市課長補佐会における災害時外国人支援体制の概要説明

名古屋市防災危機管理局の職員、各区総務課長補佐（防災）が集まる会議において、名古屋市の災害時外国人支援体制や災害語学ボランティアの活動について周知を図るとともに、令和7年度から変更になった災害語学ボランティアの派遣方法について説明を行った。

開 催 日	10月17日
参 加 者 数	20名 [R6:21名]

(3) ボランティア研修

登録ボランティアを対象に、当センターの事業内容及び多文化共生について理解を深める研修のほか、ボランティアの種類ごとに活動の心構えや必要な基礎知識、留意点等を学ぶオリエンテーションを実施した。

【研修】①「名古屋に暮らす外国人によるお話会」

②「地域の国際化セミナー」

【オリエンテーション】 各日本語教室、国際協力など

開 催 日	【研修】①8月30日 ②2月28日 【オリエンテーション】各ボランティア活動の初日など
参 加 者 数	【研修】①15名 ②35名

7 民間国際交流活動振興事業

(1) 国際交流協力・多文化共生協働事業（共催事業）

ア ～SDGsの未来に、買い物で楽しく国際協力～第9回 フェアトレード・タウンを動かす！若者たちのスピーチ

高校生や大学生を中心とする5団体の若者が、日々の活動や今後の展望について対面とオンラインで発表し、参加者と交流した。

開催日	5月31日
主催	愛知からフェアトレードの輪をつなげる会
参加者数	20名

イ やさしい日本語劇団公演&ワークショップ2025「みんなで考える私たちの日本語～コントを見て、考えて、話しあおう！～」

多文化共生社会の共通言語である「やさしい日本語」の普及を目的に、私たちの周りにある「やさしくない日本語」の「あるある」をコントで披露し、「やさしい日本語」を考えるワークショップを開催した。

開催日	8月24日
主催	やさしい日本語劇団
参加者数	40名

ウ 日韓国交正常化60周年記念「日韓友好文化交流展」

日韓国交正常化60周年記念事業として、駐名古屋大韓民国総領事館及び日韓いけばな交流の会との協働で、日本及び韓国の華道家や韓国人留学生らによる生け花展示、日本の茶道家によるお茶会、韓国文化紹介講座などのイベントを行った。

開催日	10月11日・12日（全2日）
主催	駐名古屋大韓民国総領事館・日韓いけばな交流の会
参加者数	1,500名

エ フォーラム「第7回 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」

調査結果の報告と関係者による情報交換を実施し、現状の改善を考えた。

開催日	3月8日
主催	名古屋市立大学大学院看護学研究科国際保健看護学
参加者数	38名

オ 日本語ボランティア研修

日本語学習支援者や多文化共生の担い手の育成を目的に、在住外国人の現状や課題等、「開かれた地域社会をめざして」をテーマに研修を実施した。

開催日	4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、9月13日、10月11日、1月10日、2月14日、3月14日
主催	東海日本語ネットワーク
参加者数	延べ286名

(2) 団体資料の配架

ライブラリー及び情報サービスコーナーに国際機関や政府機関、全国の民間国際交流・国際協力団体が発行するニュースレター等を配架し、各団体の活動に対する市民

の理解促進を図った。

(3) 交流室の提供

民間国際交流団体はじめ各世代の市民がミーティングや交流等に使用できる活動の場を提供した。

(4) 事業の企画・実施支援

地域の NGO/NPO やボランティア団体が実施する事業の趣旨に賛同し、後援名義の使用を承認した（後援 11 件）ほか、以下の団体・機関による事業の企画・運営・広報への助言・協力を行った。

団体・機関	アマノ芸術創造センター名古屋、名古屋市環境局、青少年文化センター
-------	----------------------------------

8 外国人市民の暮らしやすいまちづくり事業

(1) 多文化共生まちづくり事業

国籍問わず多様な住民の主体的な地域社会への参画や「顔の見える」関係づくりを促すため、地域の要請に応じて支援を行うほか、名古屋市中村区、中区、港区社会福祉協議会の地域福祉活動計画の事業実施に協力した。

(2) 外国人防災啓発事業

ア 日本語教室等における防災啓発

(ア) 防災講座@NIC

NIC が主催する日本語教室の学習者や総合相談会の参加者を対象に、災害時における自分の命の守り方や、非常持出袋について学ぶ講座を「やさしい日本語」で実施した。

開催日	①6月8日（2回実施） ②9月21日 ③10月12日 ④2月15日
参加者数	① 67名 ②24名 ③68名 ④74名
会場	名古屋国際センター

(イ) 防災出前講座@守山にほんごだいすき

守山にほんごだいすきの学習者対象に、災害時における自分の命の守り方や、非常持出袋について学ぶ講座を「やさしい日本語」で実施した。

開催日	9月27日
参加者数	31名
会場	守山生涯学習センター（守山区）

(ウ) 防災出前講座@大手日本語教室

大手日本語教室の学習者対象に、災害時における自分の命の守り方や、非常持出袋について学ぶ講座を「やさしい日本語」で実施した。

開催日	12月11日
参加者数	18名
会場	大手コミュニティセンター（港区）

イ なごや市民総ぐるみ防災訓練への参加

「なごや市民総ぐるみ防災訓練」重点区である守山区の訓練に参加し、外国人参加者に対して、NIC 外国人防災サポーター及び NIC 災害語学ボランティアの協力を得て、自治会役員による避難所受付訓練をやさしい日本語で実施した。また、災害語学ボランティアと外国人参加者が、共に防災ブースを見学し、災害用トイレの設置や起震車体験など実際の災害を想定した展示を通し、災害についての理解を深めた。

開 催 日	9月7日
参 加 者 数	29名
会 場	名古屋市立大森北小学校（守山区）

ウ 地域における合同訓練の実施

「宝学区防災訓練」に参加し、学区の住民を対象に、災害時に外国人が直面する課題ややさしい日本語について講座を行った。

開 催 日	12月7日
参 加 者 数	80名
会 場	名古屋市立宝小学校（南区）

（3）NIC 外国人防災サポーター制度の運営・養成

センターの事業や地域の防災イベントに出向いて防災啓発を行うとともに、そうした外国人人材を養成するために、防災・減災に関する研修等に参加し知識向上に努めた。

活動日・内容	7月4日 名古屋市立大学講義「多文化防災」はじめ 計6回
活 動 人 数	延べ11名 [R6:延べ8名]
研修受講日	7月4日、1月11日
登 録 者 数	9名（フィリピン、ブラジル、ペルー、ネパール、中国、韓国、ベトナム(2名)、ウクライナ）

（4）災害時外国人支援に備えた地域・広域における連携

ア 東海北陸地域の地域国際化協会との連携

「災害予防対策研修会」

東海北陸地域国際化協会連絡協議会主催の研修会で、災害時の外国人支援活動に向けた研修に参加した。

開 催 日	9月17日
-------	-------

イ 災害ボランティア団体との協力

「なごや災害ボランティア連絡会」の構成団体として、災害ボランティア団体をはじめ関係機関・団体とのネットワーク形成に努めた。

（5）NIC 日本語教室の運営

名古屋及び周辺地域の在住外国人を対象に、基本的な日本語の習得と生活情報の提供を目的とした講座をボランティアの協力により毎週日曜日に開講した。

開 催 日	第1期： 5月18日～ 7月20日（10回） 第2期： 9月21日～11月23日（10回） 第3期： 1月18日～ 3月29日（10回）
-------	--

参加者数	延べ1,415名（面接日等を含む） [R6:延べ1,520名]
------	---------------------------------

（6）NIC 子ども日本語教室の運営

ボランティアの協力により、小学校低学年、小学校高学年、中学生の3グループに分かれて教室を開催した。

開催日	第1期：5月18日～7月20日（10回） 夏休み：7月23日～8月27日（10回） 第2期：9月21日～11月23日（10回） 第3期：1月18日～3月29日（10回）
参加者数	延べ1,978名（面接日等を含む） [R6:延べ1,815名]

（7）NIC 高校生日本語教室の運営

高校在学中または義務教育年齢を超えて高校進学を目指す外国人生徒を対象に、「NIC 高校生日本語教室」を開催し、生活言語に加え、教科学習に必要な学習言語を指導した。

開催日	第1期：5月18日～7月20日（10回） 夏休み：7月27日、8月3日・9日・17日・24日（5回） 第2期：9月21日～11月23日（10回） 第3期：1月18日～3月29日（10回）
参加者数	延べ656名（面接日等を含む） [R6:延べ553名]

（8）キャリア支援プログラム

外国につながりをもつ若者向けに、先輩の体験談を聞く機会や将来について同世代と情報共有する場を設けることで、自分のキャリア形成について考えるきっかけを提供した。

開催日	① 9月28日「大学展に行こう！」 ② 11月16日「先輩の声を聞こう！」 ③ 3月8日「ライフプランを考えよう！」
参加者数	① 7名、②18名、③14名

（9）市内日本語教室との協働

市内の日本語教室に、定期的に情報を発信するとともに、地域日本語教育コーディネーターが各教室を訪問し、現状把握や課題のヒアリングを行った。

件数	72件 [R6:75件]
----	--------------

（10）日本語学習者・支援者サポートデスク

学習希望者には、教室に関する情報提供や、学習方法などの助言を行った。また、ボランティア希望者には、教室活動や運営等に関する助言、さらに必要に応じて地域日本語教育コーディネーターを派遣し、課題解決に向けたサポートを行った。

開催日	毎月第2土曜日（午前10時～正午）及び日本語教室申込日やイベント等への出張相談
件数	154件（183名） [R6:88件（113名）]
対応方法	来館、電話、オンライン等

(11) 外国人児童・生徒サポーター研修

外国人の子どもの支援に関心のある人または携わっている人を対象に、支援する際の心構えや知識・スキルを講義やワークショップを通して学ぶ講座を実施した。

①入門編：活動初心者を対象に、外国人児童生徒の状況や様々な取り組みについて知るとともに、当事者の経験談を通して子どもや保護者が置かれている状況と課題を知り、自分ができる関わり方を考えた。

②実践編：外国人児童・生徒の多様化する背景や発達段階について知り、ひとりひとりに適した支援を再考する講演とワークショップを行った。

開 催 日	①入門編：6月15日・29日、7月13日（全3回） ②実践編：1月31日
参 加 者 数	① 56名（定員40名）[R6:60名（定員40名）] ② 36名（定員40名）[R6:51名（定員50名）]

(12) 多文化子ども支援者のネットワーキング

外国につながる子どもの学びを支える個人及び様々なセクターとのネットワークを構築し、支援に関心のある人または携わっている人同士が情報交換できる場を設けた。

開 催 日	①4月20日(オンライン)、②7月13日（対面）、 ③1月31日(対面)
参 加 者 数	① 10名 ②53名 ③19名[R6：延べ73名]

(13) やさしい日本語普及啓発事業

ア 「やさしい日本語」講座等の実施

地域住民等を対象に、「やさしい日本語」の必要性や考え方、外国人とのコミュニケーションにおける有用性をわかりやすく伝える講座やワークショップを実施した。

開 催 日	①12月7日 宝学区防災訓練 ②2月19日 青少年文化センター
参 加 者 数	① 80名 ②13名

イ 「やさしい日本語」での情報発信及び作成物の活用

平時の生活情報に加え、ウェブサイト等で災害に関する情報を「やさしい日本語」で発信した。また、やさしい日本語ボランティアが新たに作成した「寒波」「落雷」など天候に関する言葉を楽しく学べる「お天気カルタ」や、自転車への交通反則通告制度の導入について伝えるリーフレットを活用し、周知に努めた。

(14) 地域日本語教育コーディネーター事業

外国人市民が地域のコミュニティで円滑に生活できるよう、日常生活に必要な日本語を習得するための日本語教育の体制づくりを行った。

ア 総括コーディネーターの配置

市内の地域日本語教育に精通し、事業の企画等を総括コーディネートする者を常駐職員として配置した。

イ 地域日本語教育コーディネーターの設置

文化庁主催「地域日本語教育コーディネーター研修」の修了者または地域日本語教育活動で豊富な経験者4名を4区毎のエリアに配置し、地域日本語教室の相談・

サポート体制を強化した。また、地域日本語教育の推進に係る実務経験を有する者を運営管理事務員（兼務）として1名配置した。

ウ コーディネーター会議の実施

すべてのコーディネーターが参加する定例会議を開催し、取組内容等への相互助言、既存の日本語教室を対象とする研修等の支援策の検討、各種情報交換等を行った。

開催回数	18回 [R6:19回]
------	--------------

エ 名古屋市内の日本語教室サーチ「なごにほ」の運用・普及

名古屋市内のボランティア日本語教室を紹介するとともに、イベントのお知らせや教室紹介ができるページにおいて情報発信を行うなど内容の充実を図った。また、利用者のニーズを踏まえ、対応言語を11言語から131言語に拡充、および教室の最新情報をPDFでダウンロードできる機能を追加するなど利便性を高めた。

対応言語	日本語をはじめとする131言語
掲載教室数	50教室 [R6:47教室]

オ 普及啓発事業

広く一般市民を対象に地域日本語教育の総合的な体制づくりの説明や、地域の日本語教室の取り組み報告を通して、地域日本語教育の普及啓発を行った。また、事業への理解を深めるために、名古屋市の体制整備事業の説明やボランティア日本語教室の紹介などを掲載したリーフレットを作成し配布した。

①「にほんごでつながろう」【再掲】

地域日本語普及啓発～咲かせよう あなたらしさ 私らしさ～

外国にルーツを持つ子どもとして日本で育った経験を持つ當間ローズ氏をゲストにお迎えし、“違いが魅力になる”多文化共生の考え方についてお話しいただいた。パネルトークでは、名古屋市内の日本語教室で活動する実践者を交え、地域の日本語教室の役割ややりがいについて知る機会とした。

開催日	11月30日
参加者数	135名（定員150名）[R6:202名（定員150名）]

②名古屋都市圏研究会での報告「まちづくりとしての日本語教室の実践と課題」

コミュニティ形成などの市民社会インフラをテーマに調査を行っている研究会において、多文化共生のまちづくりという視点で地域日本語教育の取り組みを報告した。

開催日	9月18日
参加者数	20名

カ 地域日本語教室のコーディネート

地域における課題解決や、近年課題となっている外国にルーツを持つ子どもの増加に伴う日本語学習機会不足解消のため、地域日本語教育コーディネーターを派遣し、スポーツ市民局や名古屋市教育委員会、港区社会福祉協議会、子ども応援委員会、名古屋市住宅供給公社などと協働し、地域日本語教育の体制づくりを進めた。

また、ボランティア教室だけではなく、専門家による日本語教育の充実を図るた

め、ハイブリッド型地域日本語教室「まるはち」のカリキュラム作成にも取り組んだ。

内 容	①ボランティア講座及び教室立ち上げサポート実施（1件） ・港生涯学習センター及び港区野跡コミュニティセンター ②市内の地域日本語教室（全49教室）へのヒアリング（72件） ・学習希望者やボランティア希望者に対する相談対応 ・大人向け日本語教室にて子どもを受け入れる際の困りごとの相談先の確認など既存教室の運営サポート ・学生インターンシップ、ボランティア派遣のフォローアップ ③ハイブリッド型地域日本語教室「まるはち」カリキュラム作成
-----	---

9 調査研究事業

（1）地域の国際化推進に係る調査・分析・提案

外国人市民を対象とする情報提供・発信等におけるセンターの効率的・効果的な広報活動に資することを目的に、「外国人市民の生活情報収集などに関する調査」を行った。

10 多文化共生推進月間（8月）に併せた事業

（1）絵本のひろば【再掲】

（1 情報収集提供事業（2）ライブラリーの運営 エ ライブラリー特別企画）

（2）ライブラリー子ども企画【再掲】

（1 情報収集提供事業（2）ライブラリーの運営 エ ライブラリー特別企画）

（3）名古屋に暮らす外国人によるお話会

外国人住民から母国の文化や日本での暮らしについて話を聞き、多様な文化をもつ人々とともにある日々の暮らしの中で自分にできること、多文化共生を進めるために必要なことを考える講座を開催した。2026年、愛知・名古屋で開催予定の「アジア・アジアパラ競技大会」をテーマとして、中国・スリランカ・インドネシア出身の講師による文化やスポーツに関する講演のほか、大会の競技種目にちなみ、「ボッチャ」及び中国文化の一つである「太極拳」の体験の場を設けた。

開 催 日	8月30日
参 加 者 数	60名（定員50名）[R6:57名（定員50名）]

施設管理運営業務

名古屋市との管理運営協定に基づき、公の施設である「名古屋国際センター」の指定管理者として、貸し施設（ホール、展示室、会議室、研修室、和室）の供用及び施設の維持管理等を行った。ホール（平日）及び和室の料金の 30%値下げや「ホール設営サポーター制度」を引き続き行い、利用率の向上に努めるとともに、平成 27 年度から導入した「インターネット予約システム」の利用者 ID 登録の普及を進めるとともに全施設への有線 LAN の設置や、研修室などのプロジェクター及び音響設備の更新など施設整備を進めた。また、今年度は 12 月に別棟ホールに洋式トイレ（温水洗浄便座）の導入を行い、利用者の利便性向上に努めた。

施設別利用率【日数ベース（ ）内は区分ベース】

施設名	利用率
ホール	52.9 (38.4) %
会議室 (6)	83.8 (59.0) %
第一会議室	72.5 (57.0) %
第二会議室	89.9 (62.4) %
第三会議室	90.8 (62.5) %
第四会議室	80.7 (55.6) %
第五会議室	87.4 (60.1) %
第六会議室	81.8 (56.7) %
和 室	37.5 (26.3) %

施設名	利用率
展示室 (3)	54.2 (45.2) %
第一展示室	57.1 (46.4) %
第二展示室	49.3 (42.7) %
第三展示室	56.0 (46.4) %
研修室 (3)	89.3 (64.8) %
第一研修室	85.2 (62.7) %
第二研修室	87.7 (60.6) %
第三研修室	95.0 (71.1) %
計	73.1 (53.5) % [R6 : 71.2 (50.0) %]

Ⅱ 自主事業

1 “世界寺子屋運動”名古屋実行委員会事務局の運営

(1) “世界寺子屋運動”書き損じはがきキャンペーンの推進

センターの国際協力ボランティアの協力により、書き損じはがきの回収、整理、資金化を行った。団体からの大口の寄付については贈呈式を開催した。また、広報拡充のため、「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」にブース出展し、支援の必要性和方法を展示物やワークショップを通して、貧困や児童労働等の世界の課題の周知に努めた。

書き損じはがき回収・ 整理済み枚数	86,499枚（累計5,253,225枚） [R6：102,772枚（累計5,166,726枚）]
----------------------	--

(2) 世界寺子屋運動推進協力会議の運営

協力団体に各々の広報誌・機関紙等にPR記事を掲載してもらうなど、書き損じはがきキャンペーン推進のための協力を呼び掛けた。

(3) “世界寺子屋運動”令和7年度支援への参加

(公社)日本ユネスコ協会連盟が行う“世界寺子屋運動”の令和7年度支援先であるカンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマーの4か国4団体の識字プロジェクトを支援した。

(4) “世界寺子屋運動”活動報告会

「第96回愛知県中央メーデー」及び「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」にブース出展し、パネルや写真の展示により、支援各国における最新活動報告を行ったほか、センターのウェブサイトには報告記事を掲載した。

2 NIC 国際講演会

センターの経営基本方針のひとつである「地球市民意識の醸成と活動の促進」を図るとともに、財団の活動を広く市民にPRすることを目的に、有識者による講演会を実施した。

開催日	2月11日
会場	鯉城ホール
講師	ヤマザキマリ氏（漫画家・文筆家・画家）
テーマ	テルマエ・ロマエ作者が語る 「世界を知る、そして共に生きるということ」
参加者数	558名

3 ワールド・コラボ・フェスタへの参加

国際交流、国際協力、多文化共生をテーマとする「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」においてブース出展を行い、“世界寺子屋運動”のパネル展示やワークショップを通して、地球の課題（教育や貧困等）について学ぶ機会を提供した。また、今後予定しているセンター主催のイベントやボランティアの募集について、チラシ等を配布し周知を行った。

開催日	10月25日・26日
会場	オアシス21
参加者数	1,271名

4 第40回外国人芸術作品展（共催事業）

外国人ボランティアグループ CJIS との共催により、プロ・アマ問わず、中部地域で活動する 19 か国 63 名の外国人芸術家が作品を発表する展覧会を開催し、芸術を通じた国際交流の場を設けた。

開催日	10月28日～11月2日
参加者数	延べ653名（うち外国人373名） [R6:延べ649名（うち外国人309名）]
主催	セントラル・ジャパン・インターナショナル・ソサエティ（CJIS）

5 大学との連携・協力事業

（1）愛知大学との連携・協力事業

ア 連携講座

同大学の教養課程において「現場の視点で考える国際協力、国際交流、多文化共生」をテーマとした講座（後期）を実施した。

開催日	9月23日・30日、10月7日・14日・21日・28日、 11月11日・18日・25日、12月2日
受講者数	40名
会場	愛知大学

（2）名古屋市立大学との連携・協力事業

ア 連携講座

同大学の地域特色科目「多文化共生と国際貢献」において、国際交流・国際協力・多文化共生等の課題について、その現状や問題の所在、今後の方向性等を座学やワークショップを通して解説することにより、日本や地域の国際化について考える機会を提供した（全 15 回）。

開催日	4月18日・25日、5月2日・9日・16日・23日・30日 6月6日・13日・20日・27日、7月4日・11日・18日・25日
受講者数	40名
会場	名古屋市立大学 滝子キャンパス

イ インターンの受入れ

名古屋市立大学の学生を 2 名（長期 1 名、短期 1 名）受け入れた。

6 国際的施設誘致事業

名古屋の国際化を推進するため、国際連合地域開発センター（UNCRD）はじめ国際機関を受け入れた。

7 賛助会員制度の運営

センターの趣旨に賛同し、事業及び運営への支援をいただける個人・団体を募った。新規入会の記念品として、フェアトレード製品を準備する等、賛助会員の獲得に努めた。

会 費 (1口 年額)	①団体会員50,000円 ②個人正会員5,000円 ③個人学生会員1,500円
会員期間	①入会の翌月から1年間 ②・③入会時期により当該年度末または次年度末まで
会 員 数	①44団体 ②42名 ③6名

8 事業紹介動画のウェブサイトへの掲載

センターのウェブサイトには事業概要を紹介する動画（英語音声/字幕版と10言語の多言語字幕版）を掲載し、市民の関心を高めるとともに、事業への参加を促した。

Ⅲ 国際留学生会館事業

1 宿泊事業

(1) 入居者の募集及び選考

愛知県内の大学等に在籍する外国人留学生から入居者を募集し、入居者選考委員会による選考を経て、125名(32か国・1地域、12大学) [R6:134名(26か国・1地域、14大学)]の留学生及び日本人チューターに宿泊施設を提供した。

(2) オリエンテーション等の実施

入居と退去の際に必要な生活知識を紹介するオリエンテーションを年2回(春期・秋期の入居時)開催した。オリエンテーションに併せて、春期は市内バスツアー、秋期は消火・避難訓練を含む消防・防災訓練を実施した。

(3) 歓迎会等の実施

春期・秋期の入居時に年2回、入居の留学生相互及び地域社会との親睦交流を図る歓迎会を開催した。

2 研修事業

(1) 講座

日本文化理解講座

日本の伝統文化に触れる機会を提供する華道・茶道の講座を留学生を対象に開催した。

開催日	①生け花：5月23日～6月27日(全6回) ②お茶：10月7日～11月25日(全6回)
参加者数	①14名(定員12名) ②9名(定員12名) 23名 [R6:17名]
共催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

(2) 日本文化紹介事業

着物を通して、日本の伝統文化への理解をより深めるため、留学生を対象にゆかた着付け体験会等を開催した。

開催日	①ゆかた着付け体験会：7月12日 ②十二単体験会：12月6日
参加者数	①15名(定員20名) ②17名(定員20名) 32名 [R6:34名]
共催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

3 就職支援事業

日本での就職を希望する留学生(学部3年・修士1年)を対象に、就職活動段階に応じた研修を体系的に実施した。また、就活に苦戦している留学生(学部4年・修士2年)を対象に苦戦者編(個別相談)も実施した。

研修内容及び 開 催 日	①就活ガイダンス：6月7日 「まるわかり！なんでも聞いてみよう」 ②「実戦で学べるグループディスカッション」：6月21日 ③セミナー「すぐに使えるエントリーシートの徹底攻略」：6月28日 ④競争力のある履歴書の書き方：11月8日 ⑤各種面接対策講座及び弱点の克服：11月15日 ⑥模擬面接訓練：12月20日、1月17日 ⑦個別相談会【苦戦者編】：7月28日・8月2日・3日
参加者数	①10名 ②10名 ③9名 ④3名 ⑤6名 ⑥12名 ⑦8名 延べ58名 [R6:延べ62名]

4 情報提供・相談事業

(1) 各種情報提供・相談

留学生の学業及び生活を支援するために、奨学金やアルバイト、日本語学習等の情報提供と学業・生活上の各種相談を行った。

5 交流事業

(1) 日本人向け講座の実施

愛知県内在住・在勤(在学)の日本人を対象に、次の講座を開催した。

ア 外国語講座

留学生を講師とする外国語講座を開催し、留学生と県民・市民との交流の場を提供した。その他、国際留学生会館在住の留学生を支援する会主催の外国語講座(ベトナム語・英語)を共催した。

講座内容及び 開 催 日	①前期・韓国語会話入門 : 5月12日～6月16日(全6回) ②前期・英語初級会話 : 5月14日～6月18日(全6回) ③後期・中国語会話入門 : 10月15日～11月19日(全6回) ④後期・英語初級会話 : 10月17日～11月21日(全6回) ⑤冬期・英語中級会話 : 2月16日～3月16日(全4回) ⑥冬期・ベトナム語会話入門 : 2月18日～3月18日(全4回)
参加者数	①20名(定員40名) ②21名(定員40名) ③33名(定員40名) ④39名(定員40名) ⑤18名(定員40名) ⑥29名(定員40名) 160名[R6:82名]
共 催	国際留学生会館在住の留学生を支援する会

(2) 登録ボランティア制度の活用

ア 交流サポートボランティア(16名登録)

留学生の日常生活を支援し、日本文化紹介、文化交流会等の様々な行事を企画・開催した。

イ 日本語サポートボランティア(15名登録)

「入門」、「初級」、「中級」、「日本語検定対策」「ビジネス日本語」の日本語学習会を、留学生等を対象に毎週土曜日に開催した。

(3) 地域住民等との交流

愛知県内の団体や地域住民からの要望により、会館在住の留学生と市民との相互理解を深める交流を行った。令和7年度は、延べ2,955名（うち留学生562名）[R6:延べ2,856名（うち留学生444名）]が参加した。

主な事業及び開催日	①港生涯学習センター「みんなでわいわい料理教室」への参加：5月11日、6月7日、8月10日、9月6日、11月1日、 2月7日、3月8日 ②名古屋文化学園保育専門学校との交流会：5月31日 ③留学生による生け花展覧会：6月28日 ④ハッピーひろば「やさしい日本語」交流会：6月27日 ⑤国際留学生会館在住の留学生を支援する会「交流会」：7月8日
参加者数	①138名（15名） ②23名（7名） ③20名（6名） ④16名（3名） ⑤84名（25名） ※（ ）は留学生の内数

6 地域・社会貢献事業

(1) 地域貢献促進事業

在館留学生が一地域住民として地域の各種行事に参加する機会を提供した。令和7年度は15件、延べ43名[R6:13件、延べ37名]の参加があった。

主な事業及び開催日	①港区女性会「演芸会」への出演：7月17日 ②港楽学区第3町内会「子供神輿」訪問及び練り歩き：7月21日 ③西築地学区「地藏盆おどり」への参加：8月23日 ④港区役所主催「港北公園周辺清掃活動」への参加 ：9月19日、3月19日 ⑤港区区民まつり（ブース出展・ステージ出演）：11月3日 ⑥港楽学区ウォーキング大会への参加：3月8日
参加者数	①1名 ②4名 ③4名 ④5名 ⑤7名 ⑥4名

(2) 社会貢献促進事業

在館留学生が留学生としての資質や能力を活かして広く社会に貢献する機会を提供した。令和7年度は24件、延べ60名[R6:27件、延べ48名]の参加があった。

主な事業及び開催日	①西築地小学校トワイライトスクール（講師）：4月～12月 ②港楽小学校トワイライトスクール（講師）：5月～ 3月 ③愛知県「アジ・パラ機運醸成のための『愛知県内エクスカッション』」への参加：10月11日 ④日韓交流いけばな展への出展（韓国領事館主催）：10月11～12日 ⑤名古屋国税局「留学生による酒蔵見学プロジェクト」への参加 ：11月8日 ⑥外国人向け「認知症サポーター養成講座」への参加：12月13日 ⑦港区社会福祉協議会主催「子育て支援拠点『ひまわり』におけるクリスマス交流会への参加：12月25日 ⑧当知中学校職場体験学習における母国紹介：1月21日～22日 ⑨「みなとポートフェスタ」におけるアジア・アジパラ大会PRのため
-----------	--

	めの缶バッチづくり：3月20日
参加者数	①延べ5名 ②延べ10名 ③3名 ④5名 ⑤11名 ⑥4名 ⑦1名 ⑧2名 ⑨6名

(3) 名古屋国際センター「災害語学ボランティア」への登録

在館留学生6名 [R6:27名]が名古屋国際センターの「災害語学ボランティア」に登録した。

7 会館元入居者のネットワーク化促進事業

会館の元入居留学生が留学中に深めた交流の絆を維持し、将来的に経済・文化の両面において、本国と日本や愛知・名古屋との友好関係、愛知・名古屋の国際化等へのより積極的な寄与に繋げられる仕組みづくりに努めた。

(1) メールマガジンの送信及び現状調査

送信を希望する現入居者及び元入居者に対して、年間4回(7月・11月・1月・3月)、メールマガジン(日・英)を送信するとともに、近況報告を依頼した。

送信件数	731件 [R6:1,144件]
------	------------------

(2) フェイスブック公式ページの運用

会館の現入居者や元入居者の近況報告や情報交換のため、会館のフェイスブックの運用を行った。登録者数は290名 [R6:296名]。

(3) ゲストルームの運用

会館入居留学生の家族や元入居者が来名した際の宿泊スペースとして、ゲストルームの運用を行った。

8 国際留学生会館の維持管理等

国際留学生会館の施設の維持管理を行った。令和7年度は臨時工事として、受変電設備取替工事、屋上防水工事を行った。

役員会等に関する事項

1 評議員会の開催

- | | |
|-------------------|---|
| 第1回評議員会
(書面表決) | 表決日：2025年4月1日
議案：理事の選任 |
| 第2回評議員会 | 開催日：2025年6月27日
議案：令和6年度決算
理事の選任
評議員の選任 |
| 第3回評議員会 | 開催日：2026年3月10日
議案：理事長の業績評価及び令和8年度年間報酬額の決定
並びに専務理事の令和8年度年間報酬額の決定 |

2 理事会の開催

- | | |
|------------------|--|
| 第1回理事会
(書面表決) | 表決日：2025年4月1日
議案：令和7年度第1回評議員会の開催 |
| 第2回理事会 | 開催日：2025年6月11日
議案：令和6年度事業報告及び決算
令和7年度補正予算
令和7年度第2回評議員会の開催 |
| 第3回理事会
(書面表決) | 表決日：2025年6月27日
議案：理事長・副理事長・専務理事の選定 |
| 第4回理事会 | 表決日：2026年2月4日
議案：令和8年度事業計画
令和7年度第3回評議員会の開催 |